

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM Kodak

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110

社談本の絵

G ゴールド版

うかれバイオリン





講談社の絵本ゴールド版

うかれバイオリン

絵 向井潤吉 文 網野 菊



国会図書館
12.10.18
図書納蔵書



「うかれバイオリン」について

網野 菊

このお話は、イギリスの昔からのおとぎばなしです。イギリスのおとぎばなしには、こびとがよく出てきます。こびとは、ふつうの人間にはできないことができます。このお話の中のコビとも、こんな、ふしぎなバイオリンをもっていたのです。フレッドが、親切で、正直だったので、こびとは、このバイオリンをくれたのでした。ひやくしようもきこりもする人たちがいたので、フレッドはそんなをしたり、ひどいめにあいましたが、けっきょくは、しあわせになりました。このお話は、うそをついてはいけないことや、正直に、そして、よくはたらいで、ひとに親切にするよう教えています。

——この絵本をおかきくださった先生——



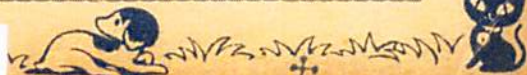
作家
網野 菊先生

明治三十三年東京に生まれる。
日本女子大学英文科卒業。
第二回如流文学賞受賞。
日本文芸家協会会員、日本ペンクラブ会員。
著書「光子」「汽車の中で」など。



画家
向井潤吉先生

明治三十四年京都に生まれる。
関西美術院卒業。
一九二七—一九二九年までフランスで画業に専心する。
樹牛賞、昭和洋画奨励賞受賞。
現在、行動美術協会会員。



フレッドは、ある ひやくしょうの うちで
 はたらいで いました。しゅじんの いいつけ
 をよく きいて、どんな つらい しごとで
 も ほねおしめないで、あさから ばんま
 ではたらきました。しゅじんは けちんぼう
 の よくばりで、フレッドに ぜんぜん
 きゅうきを くれません。
 フレッドは 三ねんも はたらいで
 いましたが、その あいだ、
 一もんも おかねを
 もらわなかったの
 です。



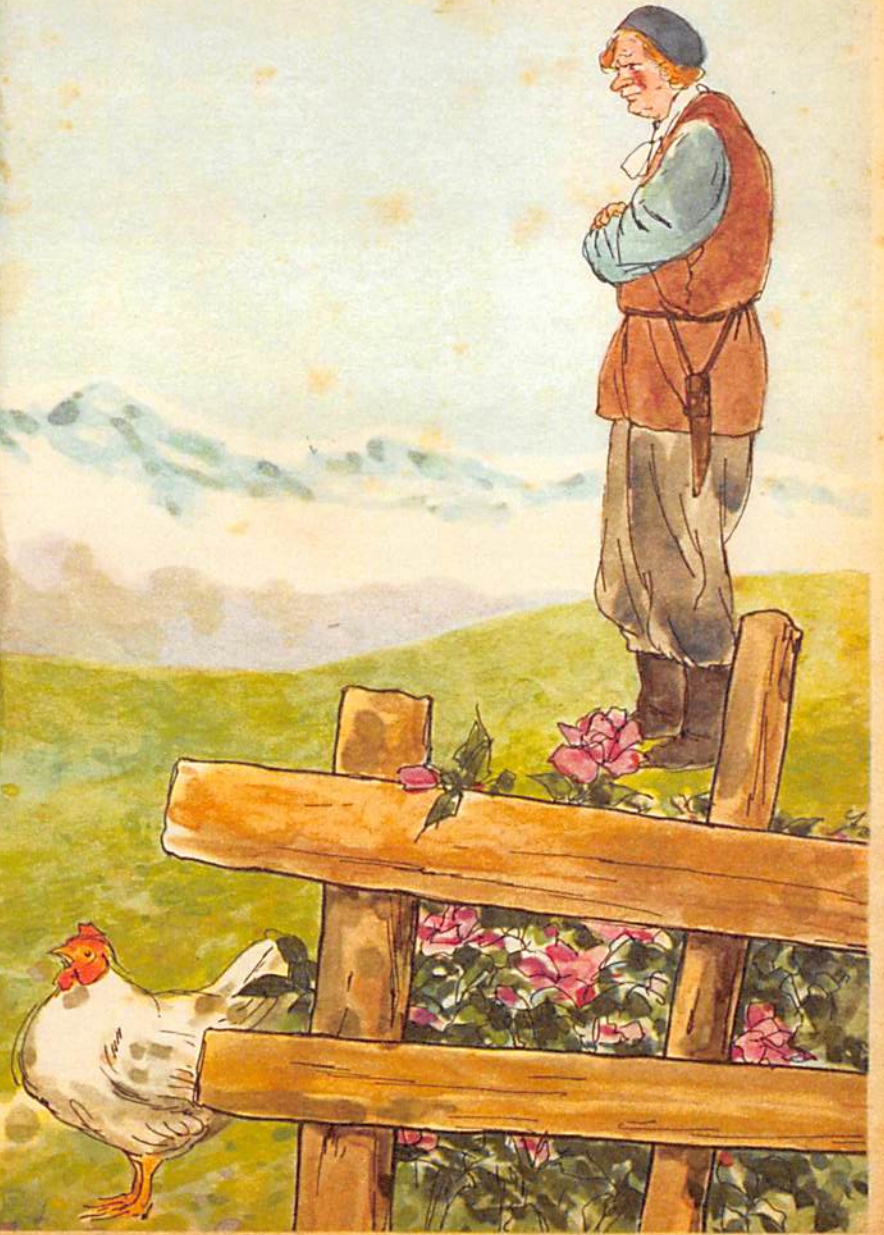
とうとう たまり
かねて、フレッドは
しゅじんに いいま
した。

「きゆうきんを
ください。三ねん
ぶんの おかねを
ください。」

しゅじんは、「では、一ねんに
一まいの わりで、どうかを 三まい
やろう。」と いいました。

ずいぶん、すくない きゆうきんですね。
でも、フレッドは はじめて おかねと
いうものを もったので、およろこびで
す。





「そうだ、この
 おかねをもって
 せかいけんぶつに
 でかけよう。フレッドは
 たった 三まいの どうかを
 もっただけなのに、すっかり きが
 おおきく なって、しゅじんに わかれを つげ、
 げんきでりょうこうに でかけました。
 「ら、ら、ら」と、おおきな こえで うたを うたい、
 のを こえ、やまを こえ かわを わたって、いろいろ
 きれいな けしきを みて よろこびながら、どんどんあ
 るいて いきました。

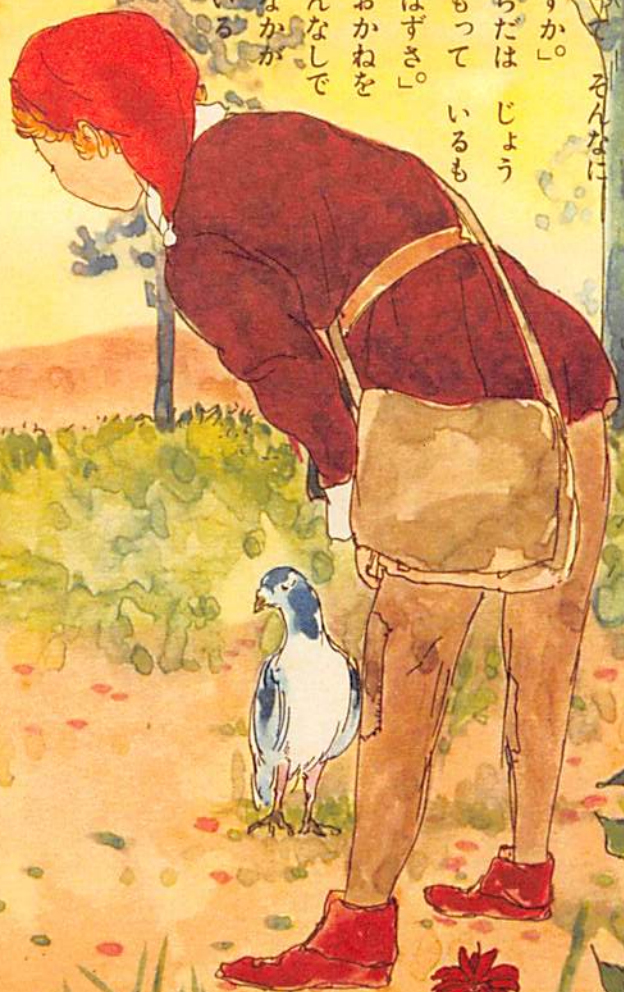


「はやしのところへきました。
はやしはなからふくろをかつ
いた。ひとがでてきて、フレッ
ドをよびました。」

「もしもし、なんだか、そんなに
きげんが、いいんですか。」

「だって、ほくからだは、じょう
ぶだし、おかねももって、いるも
の、きげんが、いいはすさ。」

「わたしに、その、おかねを
くれませんか。一もんなしで
パンが、かえず、おなかか
すいて、こまって、いる
のです。」



フレッドはきの
どくに おもって、
どうかを 三まいとも
やって しまいました。
こびとは たいそう
よろこんで、「あなたは
ほんとうに しんせつですね。
おれいに これを あげましょう。」
といって、ふくろからバイオリンをだし
て フレッドに くれました。
「これは うかれバイオリンと いう ふし
ぎな バイオリンなのです。これを ひいて
きかせると、だれでも、みんな うかれて
おどりますのです。」





フレッドは、バイオリンを もらって おお
 よろこび。また、どんどん あるいて いくと、
 おじいさんの きこりが きを きって いま
 した。おおきな かの きを きるのですが、
 おじいさんは ちからが なくて、なかなか
 きれません。おじいさんは フレッドを よん
 で たのみました。

「この きを きって くれなにか。おれいに
 ぎんかを 一まい あげるよ。」



フレッドは、こびとに おかねを ぜんぶ やつて しまったので、ぎんかを もらえたら いいなと おもいました。

それで、おじいさんに かわって きを きりました。わかい、そして、ちからの ある フレッドが、いきおい よく おのを ふると、きはじきじめんに たおれました。それをみると、おじいさんは、ぎんかを フレッドに やるのが おしく なりました。

「ぎんかを やるのは もったいない。どうかを 一まいやれば よい。」と かんがえました。





おじいさんが どうか
を 一まいしか くれな
いので、フレッドは、
「やくそくが ちがう。
ぎんかを ください。」と
いいましたが、けちんぼ
うで よくばりの おじ
いさんは ききません。
「やくそくを まもらな
いなら、こうして やる。」
と、フレッドは バイオ
リンを ひきだしました。
すると、おじいさんの
てや あしが ひとりで
に おどりだして、とめ
ようと しても、どうし
ても とまりません。



おじいさんは おどりとたびれ
て、いきが くるしく なって、
こまりました。

「わしが わるかった。ぎんかを
あげるから、バイオリンを やめ
てくれ。」と あやまりました。

フレッドが ぎんかを うけとつ
て バイオリンをやめると、おじ
いさんの てや あしは とまり
ました。

フレッドは バイオリンを かか
えて、また どんどん あるいて
まちの ほうへ いきました。



きこりの おじいさんは ぎん
かが おしくて なりません。
おまわりさんの ところへ
行って、

「あの おとこが わたしの
ぎんかを ぬすんだから つか
まえて ください。」と、うそを
いいました。おまわりさんは
フレッドを おいかけて いっ
て、つかまえて やくにんの
ところへ つれて いきました。
「ぬすんだのでは ありません。
きを きって あげた おれい
にもらったのです。」と、フレッ
ドが いっても、やくにんは
ほんとうに しません。



「この おとこの いう ことは みんな うそです。ひどいめに あわせて やって ください。」と、きこりの おじいさんが いいました。

やくにんは、「うそつきのどろぼうは しけいにする。」と いって、フレッドを しけいだいへ つれて いきました。

まちの ひとたちは フレッドを みに あつまりました。

きこりの おじいさんも きて います。フレッドは しけいだいの うえにのせられて、いよいよ しけいという ときになりました。

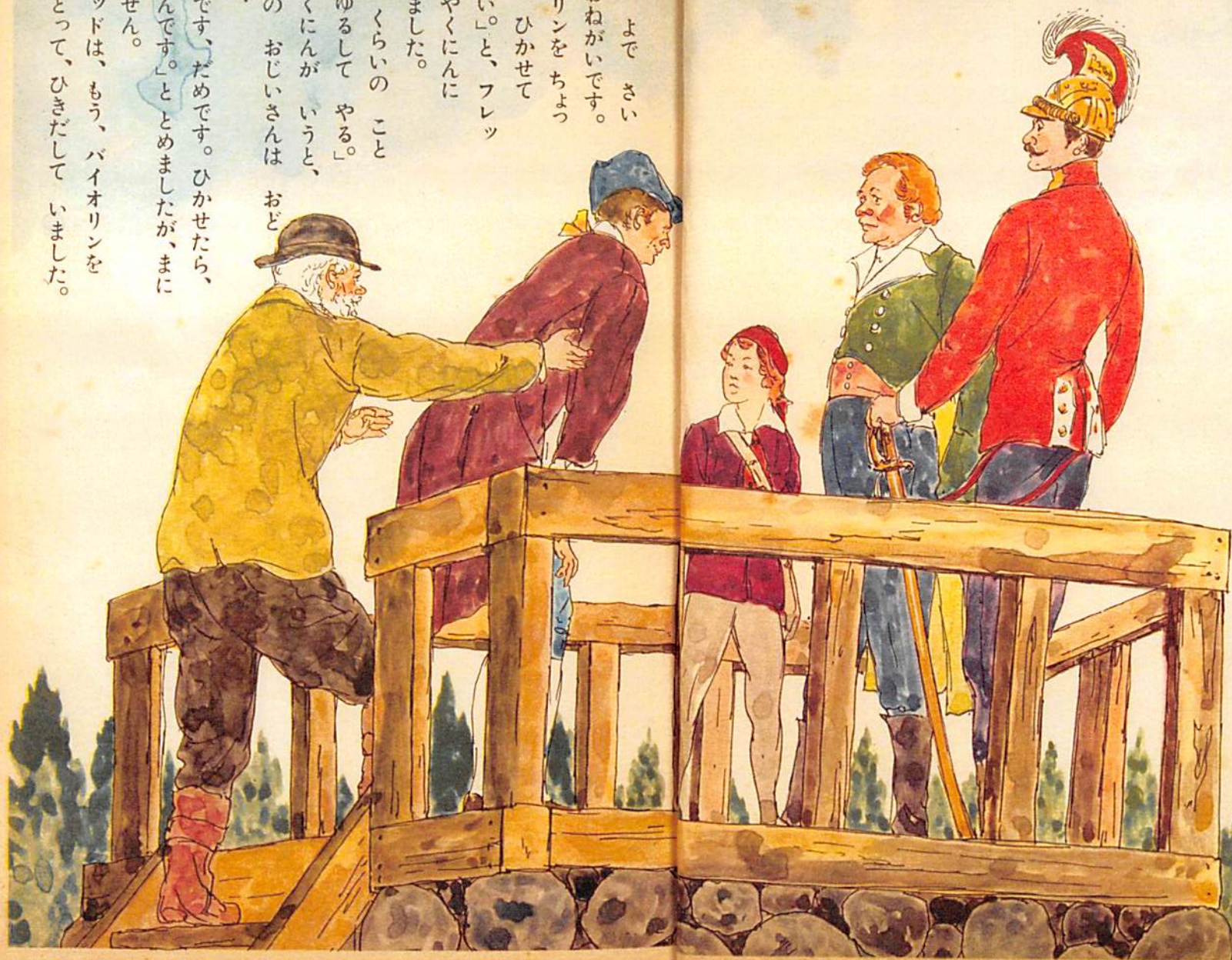


「この よで さい
 ごのおねがいです。
 バイオリンを ちよつ
 とだけ ひかせて
 ください。」と、フレッ
 ドは やくにんに
 たのみました。

「その くらいの こと
 なら ゆるして やる。」
 と、やくにんが いうと、
 きこりの おじいさんは おど
 ろいて、

「だめです、だめです。ひかせたら、
 たいへんです。」ととめました。が、まに
 あいません。

フレッドは、もう、バイオリンを
 てに とって、ひきだして いました。





だれも かれも、いいえ、
 なにも かもが おどり
 でした。やくにんも
 じゅんさも、きこりの おじ
 いさんも けんぶつにんも、
 みて いる ぜんぶの ひと
 が おどりました。

いぬも、ねこも、きも、
 しけいだいさえ おどりだ
 たのです。

おどらないのは フレッドだ
 けです。みんな おどる おどる。
 やめたくても やめられません。
 バイオリンの ねが している あい
 だは やめる ことが できません。





タラ、ラ、ラ、ラ、ラ。バイオリンは、ゆかいそうなねをひびかせていますけれど、おどっているほうは、ゆかいではありません。いいえ、はじめは、ゆかいがつて、いたものもあつたのですが、しまいには、みんなおどりくたびれてくるしくなり、やすみたいとおもつてもやすめないで、おこつたり、ないたりしながら、おどっています。

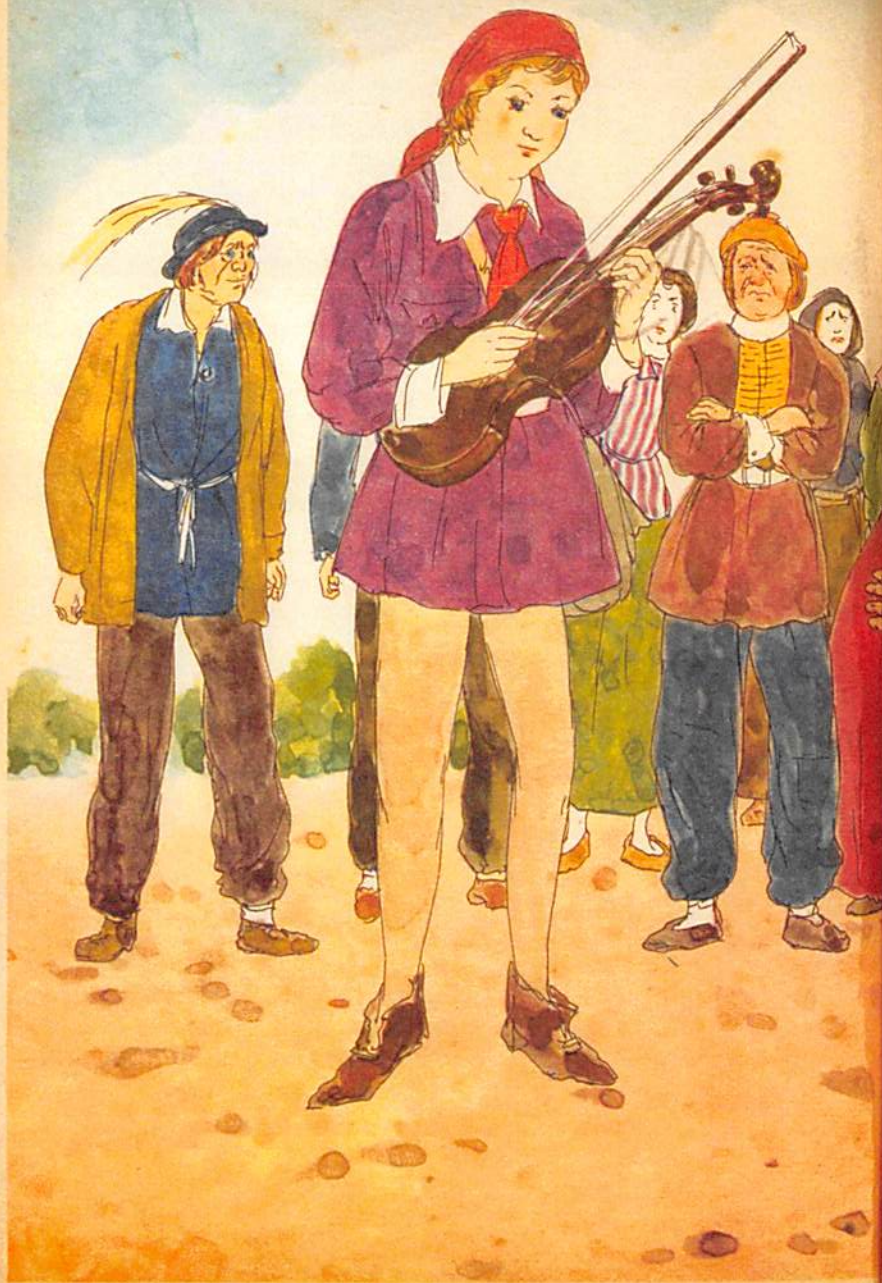
しけいだいは、あんまりおどつてとびあがつたので、めちやめちやにこわれてしまいました。



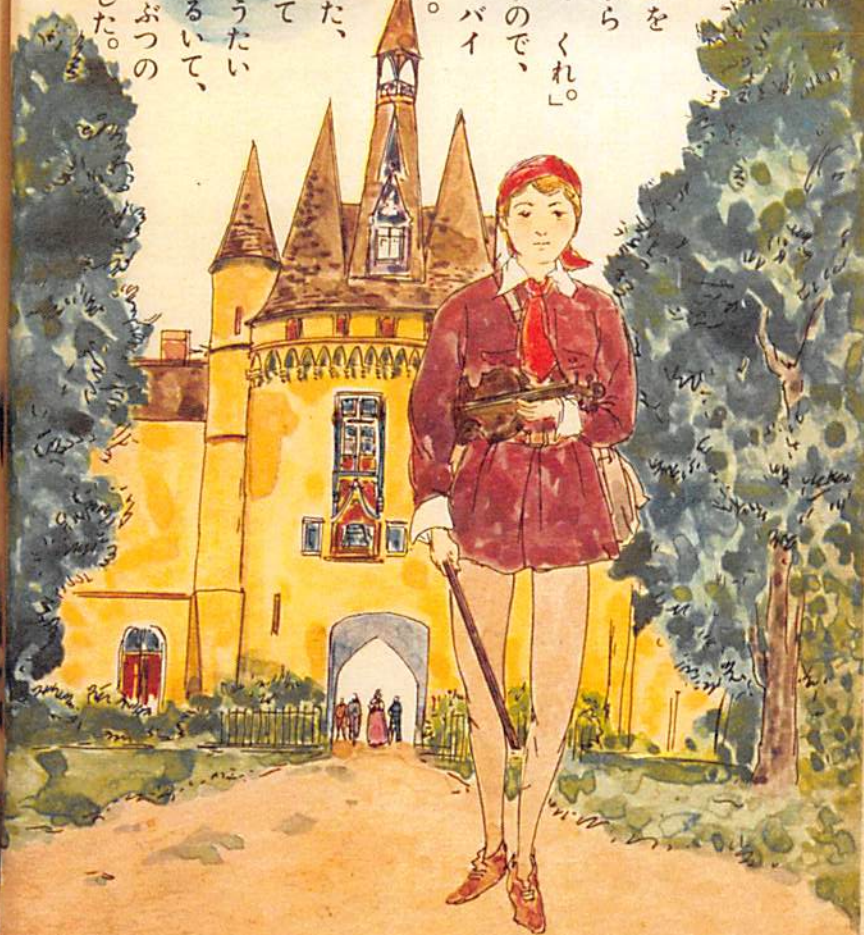
きこりの おじいさんは、フレッドにあやまりました。

「わたしが わるかった。おまえさんのことをどろぼうだのなんだのと、うそをいつて わるかた。バイオリンをやめてくれ。きんかはあげるから。」
「そんなことをいつて だましても だめだめ。」と、フレッドはききません。

そして、バイオリンを ひきつけました。



「きみが どれ
ぼうでも なく、
うそつきでも ない
ことは よく わかつ
た。もう バイオリンを
やめて、おじいさんから
ぎんかを うけとって くれ。」
と、やくにんも いうので、
フレッドは やつと バイ
オリンを やめました。
フレッドは ぎん
かを うけとると、また、
バイオリンを かかえて
げんきよく うたを うたい
ながら、どんどん あるいて、
たのしい せかいけんぶつの
りようをつづけました。



おつきさま

いつも やっぱり この こみち
うっとり みていた おつきさま
かあさん おかえり まちながら
すすきの しろいほ ぬいてます
おつかい すまして かあさんが
まちから かえって くる こみち
わたしの おみやげ なにかしら
こっそり おしえて おつきさま

絵詩

鈴木比呂志
小坂茂



Sige